

山内 涼成です



山内 涼成

気象庁によると、2024年の日本の平均気温は過去30年の平均を1・48℃上回り、統計開始以来最も高くなりました。「たった1℃」と思いますが、約2万年前の氷河期は、現在よりも世界平均が5℃、6℃低いだけで、地球は氷に覆われ、海面水位も120m程度低かったのです。



火力発電やめるべき

北九州市は地球温暖化対策実行計画において、2030年までにCO₂の排出量を47%削減し、2050年までにゼロを目指しています。まずは、市内にある10か所の火力発電所の見直しと、今後予定されている新設計画を中止すべきだと迫りました。



建設中のLNG火力発電所
(九州電力HPより)

地球温暖化対策実行計画

再生可能エネルギー × 地産地消

今年度中の稼働が予定されている洋上風力発電は、22万KWの発電能力で、市内世帯数の4割(17万世帯)の電力を賄うことができます。この新たな再生可能エネルギーを地産地消で活用する仕組みづくりが必要です。



洋上風力発電の完成イメージ
(北九州市HPより)

CO₂削減と企業誘致を

「企業誘致大作戦」と銘打って企業誘致を進めています。すでに決定している大規模なデータセンターは、CO₂排出量は莫大で、市の地球温暖化対策実行計画にも影響があります。最低条件として電力消費量など基本的なデータの提出と周辺住民への丁寧な説明を求めました。また、データセンターからの排熱は大きな課題です。ヨーロッパなどで採用されている、暖房施設や温水プールへの利用を企業と協議することを求めました。こうした協議も誘致の際に戦略をもって取り組むべきだと指摘しました。



**無料法律
生活相談**

☎093-771-5323

法律相談は毎週水曜日
(18時から)、生活相談は随時
(いずれも予約が必要です)。
弁護士、山内市議がお受けします。

若松区修多羅2-4-10

市民の声を届けた9月議会

日本共産党市会議員団は、国の大軍拡、福祉切り捨ての政治と正面からたたかうとともに、ムダな大型開発事業に歯止めをかけ、深刻な物価高から市民の暮らし・中小零細業者の生業を守り、市民が主人公の市政を実現するために全力で取り組みます。



市政懇談会

67人が参加

質疑応答の時間には、今年8月の大雨災害に関するものが多く出されました。過去にも大雨災害はありましたが、これほどの被害が若松区で出たのは初めての経験であり、多くの課題が浮き彫りになりました。



気候変動の影響で、今後はこれまでの規模の災害に備える必要があります。市議団は国と連携し、市が防災と減災の取り組みをしっかりと進められるよう働きかけてまいります。

がけ崩れ

「自助努力では限界」市は独自支援を

北九州市では8月9日から大雨で全壊1件を含む90件の被害が発生し、市内20か所以上でがけ崩れが起きました。住宅や道路に土砂が流入し、市民生活に深刻な影響を及ぼしています。



市議団は「自助努力では限界だ」と指摘し、融資頼みでなく他都市のような工事費補助など、市独自の公的支援を早急に検討すべきだと強く求めました。

反対討論

不十分な物価高騰対策、ムダな大型開発、北九州空港での軍事訓練など、11件の議案に反対しました。詳しくは、日本共産党北九州市会議員団のホームページをご覧ください。



長提出議案の
詳細はコチラ

反対した議案の主な内容

- 物価高騰対策
- 大型開発事業
- 予算事務事業の見直し
- デジタル市役所・業務量調査
- 血倉山ロングスライダー
- 職員の長時間勤務
- 教員の働き方
- マイナ保険証
- 国民健康保険料
- 特定利用空港に選定された北九州空港
- 門司港地域複合公共施設建設整備事業

日本共産党各議員の常任委員会配置(◎委員長、○副委員長、☆議会運営委員)

総務財政委員会	経済港湾委員会	教育文化委員会	保健福祉委員会	環境水道委員会	建設建築委員会
永井 佑	大石 正信	◎高橋 都	伊藤 淳一	○荒川 徹	☆山内 涼成
		宇土浩一郎			



佐賀空港に 17 機配備

オスプレイを視察しました

佐賀空港でオスプレイを視察



8月26日、日本共産党北九州市議団は、佐賀空港を訪れ、配備が完了したオスプレイを視察しました。滑走路を使った離着陸訓練が繰り返され、独特の重低音を響かせる飛行を間近に確認しました。

「飛行ルートはパイロット」まかせ

佐賀県や九州防衛局の担当者は「住宅地や病院上空は制限する」と説明しましたが、「最終判断はパイロットに委ねられる」とされ、市民の安全が守られない実態が浮き彫りになりました。

相次ぐ事故と“オスプレイ大国”

オスプレイはこれまでも、沖縄・与那国駐屯地での機体損壊事故や、屋久島沖での墜落死亡事故など重大事故を繰り返しています。原因究明がなされないままの運用に、市民の不安は高まるばかりです。オスプレイの正式採用は、世界でもアメリカと日本だけ。日本は“オスプレイ大国”であり、その負担は住民に重くのしかかっています。



北九州市でも低空飛行の危険

防衛省は九州7県85か所での低空飛行訓練の可能性を示しており、市内では小倉駐屯地、曽根訓練所、富野分屯地周辺などが対象とされています。高度300メートル以下の低空飛行や夜間訓練が計画され、住宅地や学校、病院のすぐそばの飛行が懸念されます。

市長に「飛行中止」を申し入れ

こうした現状を受け、市議団は9月9日、市内市長に対して「北九州市上空でのオスプレイ飛行中止を求める」申し入れを行いました。



市民とともに安心のまちへ



安心して暮らせる北九州を守るために、これからも市民のみなさんと力を合わせて取り組みます。



— 2025年 — 学校ウォッチング

特に注視したのは「雨漏り」問題。雨漏りしている学校が増えてきています。今年度、国からの交付金が下りずに大規模改修が中止になった守恒小学校も酷い状態でした。予算がないからと後回しにするのは、天井落下の原因になる等とても危険です。

雨の降り方が変わり災害級の大雨が増えてきた中、雨漏りの改善は喫緊の課題です。早急な対応をと、懇談で申し入れます。

改善要望の実現

2023年度の学校ウォッチングで指摘していた清水小学校のグラウンド。2025年8月に工事の一般競争入札が公告されました！

「新しいのに石がゴロゴロ出てくる」と、教育委員会との懇談でも注目された箇所です。参加者のみなさんの力で、運動場の改修が実現します。

今年も実施しました！

各区2校ずつ、学校施設チェックに行きました！教育委員会との懇談は、10月中旬を予定しています。子どもの安全と学ぶ環境の改善に向けて、取り組んでいきます。



2025年学校ウォッチングの様子



2023年度学校ウォッチング(清水小)



学校給食の無償化はいつ？



▶ 国の動向を注視する

国が無償化にかかる制度の考え方や具体的な内容を示していないなか、詳細な制度設計を行うことは難しい状況であるとし、開始時期や対象者については明言しませんでした。

▶ 超限定的に免除

北九州市は9月議会において、小学校6年生と中学校3年生の給食費を3ヵ月免除する補正予算を計上しました。期間は、R8年1～3月分です。

この免除を提案するにあたって、先日発足した「学校給食プロジェクトチーム」は関与していません。検討するまでもなく、市長の意識次第で学校給食の無償化は実現できます。

▶ 本議会・委員会で実現を求める

学校給食の無償化を実現してほしいという市民の願いに応えるよう要望しました。限定的な免除がはじまる年明けに、すべての学年で学校給食の無償化を実行すべきです。

「北九州食堂」オープン！

9月8日、北九州市役所の地下に、待ちに待った食堂がオープンしました。職員食堂は単なる「食事提供の場」ではなく、健康維持・働きやすさ等を支える大切な福利厚生の一環です。

職員の福利厚生は…？

健康面への配慮、利便性と効率性、コストパフォーマンスなどが求められます。が、メニューの値段は高め。市は「社員食堂を通した健康づくり」や「毎日プラス一皿の野菜」を推奨しているものの、定食にサラダはなし。「良い福利厚生」へ改善するために、食堂への補助を市に求めました。

